

事例部門 優秀賞 (日本建築家協会JIA長野県クラブ代表賞)

## ふだん木の暮らし

所在地 伊那市  
構造 木造2階建  
延べ面積 161.39㎡  
応募者 建築設計室ヴェクトル 一級建築士事務所  
倉田 政人

### 作品のコンセプト

日々の暮らしの中で木とのかかわりが、地産材・里山との繋がりに直結していると感じています。気張らず・気ままな普段使いの木の暮らしを基に、木を通じて地域とのコミュニティを目指しました。



高さを抑え、緩やかな屋根勾配と大庇とした民家調の外観



開け放ちの続きの間となる2階和室



2階の大開口は、近隣の山並みを季節の風景として取り込む



- ・薪ボイラで創熱し、給湯・暖房 全ての温熱に利用
- ・暮らしの中に薪づくり等、必然と木にかかわりが生まれるライフスタイル
- ・建物の用材は調達から建築まで全て市内で行った、低マイルージ材を利用



気持が外へと向かう主寝室、ラウンジを介して庭へ続く

### 信州での「住まい方」 応募者の思い

「住まうことは、この場所に暮らすこと」と捉え、特に信州の住まいには、場所の特性や地域ならではの豊かな自然の恵みを取り入れた建物と、活用した住まい方が必要と考えます。中でも森の恵みを取り入れ、日々木とのかかわりのある住まい方は自然と地産材や里山への関心が深まります。

また、用材やエネルギーだけでなく、人と人・地域を結びコミュニティを造り、地域内の循環、産業への懸け橋にもなります。この一端を担う建築士として、かかわりをもつ全ての方々や信州での住まい方を通じ、次世代へ継ぐ地域や環境への意識共有に寄与したい。

### 審査員講評

地域産材利用を第一と考え、樹種にこだわることなく入手可能な材料を適所に利用するという考え方で出来上がった住宅である。材料の調達だけでなく製材、乾燥、加工、建築も全て地元で行うという徹底振りに驚かされた。内部は適度な段差を利用して空間に変化をつけつつ、品よくまとまっている。床材の中が3種類あることから、材料を大切に使う思想が伝わる。

しかし、特質すべきは住まい方にある。山に残る未利用材、処分材等を木質ボイラーで焚き湯水を作り、給湯と暖房に利用している。林業者にとって使い道の無い材料を低額で購入し、バイオマスエネルギーとして利用する考え方は双方にとって有用であり、なによりも環境に優しい。

長野県内の住まい方として一つの方向性を示した住宅である。  
(荒井 洋)